

東京大学地域同窓会連合会「ただひとつ」令和3年(2021年)5月号

第241号

発行日:2021年5月1日

I 2021年「なにが、いつ、どこである」~同窓会・大学・学士会その他の主要行事

2021年5月 以降		
五月祭	5月15日(土)・16日(日)	本郷他 ウライン開催
学士会 午餐会	5月20日(木) 12:30~食事、13:20~講演	学士会館 「日本の医療提供体制の課題と展望」 永井 良三氏(自治医科大学学長/宮内庁皇室医務主管)
東京銀杏会総会	5月25日(火)18:00~ リアル・オンライン併合を検討中	東京第一ホール
連合会総会	5月25日(火)15:30~ 事前の文書審議・オンライン開催検討中。	東京第一ホール
鎌倉淡青会総会	6月19日(土)午後	ウラインのみ
埼玉銀杏会 令和3年度の講話を聞く会	6月26日(土) 13:00	さいたま共済会館 504 会議室 詳細未定
校友会役員会	7月2日(金曜) 12:00-13:30 文書開催(6月下旬)とリアル開催 の併用の可能性あり	東京大学本部棟12階大会議室
群馬銀杏会総会(10周年)	7月3日(土) 11:00~ 書面による総会	赤羽井田ビル高崎

周年期同窓会 日程未定

1. ご連絡をお待ちしています

● 仙台赤門会20周年 山梨銀杏会15周年 松本赤門会40周年 東静銀杏会25周年 広島赤門クラブ 35周年
長崎銀杏会25周年 熊本淡青会30周年 鹿児島銀杏会25周年

● 主要同窓会(2022年開催) 東海銀杏会 2022年2月28日 ② 関西東大会 2022年

● 関東近辺の会 神奈川銀杏会 埼玉銀杏会 栃木銀杏会

2. 行事予定:地域同窓会総会についてのお願い **

- ① 新型コロナウイルスの収束は予測が難しい状況ですが、総会等のご予定が固まったらご連絡ください。名前の挙がっていない会、役員未訪問、新規設立の会など、皆様から手が上がるのを歓迎します。
- ② 各地域同窓会については、総会(特に周年期の会)を単に中止するのではなく、ウライン又等なんらかの形で開催するよう努力をお願いします。変異ウイルス感染拡大に鑑み、リアル開催は最小限をお願いします。
- ③ 大学(また連合会本部)役員の訪問については、① リアル訪問(ベストですが、できない場合でも)、②ウライン(ZOOM等でリアルタイム)又は、③ビデオ等(事前の録画)、或いは、④メール又は会報への投稿を通じて、地域同窓会へメッセージを送る等、工夫をしてコロナ禍でも交流を継続したいと思います。

II 大学情報

1. 藤井総長の就任のご挨拶 (大学ホームページから) 日・英併記

就任挨拶



現代は、さまざまな人類史的な課題が、人びとの日常の暮らしのなかで露わになった時代です。有限な地球環境に対する人間活動の影響は無視できない水準に至り、未来の世代に対しての責任のありようを問う議論が世代間でなされています。生命倫理など、科学技術の発達と応用に伴って浮かび上がってきた新たな問題もまた多く、文理の垣根をこえた総合知の構築が期待されています。今般の COVID-19 の蔓延は、人びとが集まり、話し合い、触れあうといった日常的な行為に内在していた、人類史におけるかけがえのない意味を考える機会ともなりました。

これまで前提としていた諸条件や常識が大きく変化しつつある今日だからこそ、私たちは過去・未来の長期を見渡す視野に立って、学術が果たすべき役割を自覚し、新しい大学像の構築に取り組まねばなりません。

東京大学の新しいあり方を開拓するにあたり、重要な行動のひとつが「対話」です。東京大学は、立場や価値観が異なる人と人との間で、あるいは大学と社会との間で、さらには国際社会のなかで、対話することを重視します。なぜなら対話とは、未知なるものと向かいあう実践だからです。これからなにをなすべきか、まず自分のなかの未知に問いかけることが第一歩でしょう。未知の他者との対話は互いに向きあうことから始まり、同情や感傷ではない深い共感的理解にもとづく信頼の構築を目指します。そうして初めて他者を巻き込む関係が生まれ、新たな協創が始まります。対話による信頼は、私たちが創りあげる共通資本であり、そうした対話こそが、「地球という人類の共有財産（グローバ

ルコモンズ）」をはじめとする公共財の責任ある管理 (stewardship) の基盤ともなります。

人類が抱える大きな課題に積極的に取り組む人材を育てることは、東京大学が社会から負託された使命でもあります。多様な学問に基づく知を基盤に、学生たち自らがその好奇心を沸かたせ、仲間との対話を豊かに織りなす機会を充実させるなかで、他者を尊重する精神と創造性を育みます。

「Diversity (多様性) と Inclusion (包摂)」の理念は、学知創出の局面だけでなく、人材育成、そして経営や社会連携の局面でも基本となるでしょう。共通の目標を有する国内外の学術機関や地域、産業界との間で強固なネットワークを構築し、連携・協働することによって、学びを社会と結びなおす取り組みを進めます。また教職員や学生など、多様な背景をもった優秀な「人」を世界から集め、その人たちが生き生きと活動できる場を実現します。教育から研究、事務業務までさまざまな面でデジタル革新を進める「デジタル・キャンパス」を実現することで、教職員の時間や業務の質を向上させ、東京大学を「世界の誰もが来たくする学問の場」にしていくことを目指します。

「知」の創出、「人」の育成、「場」の構築という相互に関連する取り組みを着実に進めるべく、本学構成員の皆さんとともに弛まぬ努力を重ね、しなやかで開かれた東京大学への改革を力強く推しすすめていく所存です。

東京大学総長
藤井 輝夫

(Message from President Teruo Fujii)

Humanity faces many formidable challenges which now clearly affect our daily lives. Human activity has stretched the finite resources of our planet to breaking point, and while we have a responsibility to hand over a sustainable world to future generations, our commitment is rightly being questioned. The advance of technology and its expanding applications bring new problems in areas such as bioethics, the solutions to which need new knowledge structures transcending the traditional confines of the arts and sciences. The COVID-19 pandemic disrupting our lives right now has spread through the everyday activities of gathering, talking and coming into contact with each other. This is an unparalleled chance to rethink these actions of ours on the scale of human history.

Everything we took for granted is being questioned or in a state of flux. Taking a long-term view embracing both the past and the future, we must build a new model of the university while sensible to society's academic needs.

Dialogue is a key action for cultivating a new vision of UTokyo. The university places great importance on dialogue between people of different backgrounds or who espouse different values, between the university and society, or within the international community. This is because dialogue is the practice of facing what you do not know. First, you need to have a dialogue with yourself. It is important to explore the unknown within ourselves to determine the limits of our ignorance. Dialogue with strangers begins by facing each other and building trust based on an understanding rooted in empathy. Only then can we create a relationship that involves others and leads to new collaborative engagement. Trust growing out of dialogue is the common capital we create. Such dialogue forms the

foundation for the responsible stewardship of public goods, such as the Earth system, the shared property of humanity that is our global commons.

UTokyo has been entrusted by the public to nurture individuals who will actively address the major challenges humanity faces. With a solid foundation in the knowledge of diverse academic domains, students can galvanize their own curiosity and enhance opportunities to engage in dialogue with their peers, a process that leads to nurturing creativity and a spirit of respecting others.

Diversity and inclusion are fundamental not only in the creation of academic knowledge, but also to human resource development, university management and partnerships with society. We will build a strong network with academic institutions and industries with whom we share common goals, both at home and abroad, and collaborate to embark on promoting initiatives to reconnect academic learning with society. In addition, we will gather outstanding people with diverse backgrounds from around the world as faculty, staff and students, and create a place where they can thrive. By realizing a digital campus that promotes digital innovation throughout education, research and administration, we aim to improve the quality of faculty and staff members' time and work, and make UTokyo a place of learning where people from around the world will want to come and join.

To steadily advance these interlinked initiatives of creating knowledge, nurturing people and establishing a place of learning, I will work tirelessly together with UTokyo members to drive forward reforms to make the university resilient and inclusive.

Teruo FUJII
President
The University of Tokyo

2. 令和3年度学部・大学院入学式（大学ホームページより抜粋・編集）

令和3年度学部入学式が4月12日（月）午前、大学院入学式が同日午後日本武道館において挙行されま



した。今年度の入学式は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて規模を縮小し、新入生のみでの参加による挙行となりました。藤井輝夫総長は欠席となりました。

・**学部入学式**には約3,100名の学部新入生が出席しました。

理事・副学長、学部長、研究科長、研究所長並びに来賓の建築家 妹島 和世（せじま かずよ）様、宗岡 正二（むねおか しょうじ）東京大学校友会 会長が登壇し、10時40分に開式となりました。

式では、大学を代表して相原 博昭（あいはら ひろあき）理事・副学長から新入生へのお祝いのメッセージが述べられ、続いて森山 工（もりやま たくみ）教養学部長が式辞を述べました。式辞の後、来賓の建築家 妹島 和世 様及び宗岡 正二 東京大学校友会 会長からそれぞれ祝辞をいただきました。その後、入学生総代 大星 温音（おおほし はると）さん（理科一類）による宣誓が行われ、式を終えました。

・**大学院入学式**には約2,500名の大学院新入生が出席しました。

理事・副学長、研究科長、研究所長並びに来賓の宗岡 正二（むねおか しょうじ）東京大学校友会 会長が登壇し、14時20分に開式となりました。

式では、大学を代表して相原 博昭（あいはら ひろあき）理事・副学長から新入生へのお祝いのメッセージが述べられ、続いて堤 伸浩（つつみ のぶひろ）農学生命科学研究科長が式辞を述べました。式辞の後、スウェーデン王立科学アカデミー元会長 Svante Lindqvist（スヴァンテ＝リンドクヴィスト）様から祝辞のビデオメッセージをいただき、続いて来賓の宗岡 正二 東京大学校友会 会長から祝辞をいただきました。その後、入学生総代 石川 知輝（いしかわ ともき）さん（人文社会系研究科）による宣誓が行われ、式を終えました。

◎令和3年度東京大学学部入学式宗岡 正二 東京大学校友会 会長祝辞

只今、ご紹介頂きました宗岡でございます。東京大学校友会を代表致しまして、東京大学に入学された皆様方に、心からお祝いを申し上げたいと存じます。また、入学生のご家族の皆様方にも、重ねてお祝いを申し上げます。本日は誠におめでとうございます。

まずもって、足下のコロナ禍の最中にもかかわらず、このような形で入学式を執り行うことができましたことは、総長はじめ学内の関係者の皆様方のご尽力によるものと心から感謝を申し上げたいと存じます。

新入生の皆さんは、この春の東京大学入学と同時に、全員が東京大学校友会の新たな仲間になられました。校友会会長として、新会員の皆さんを心から歓迎致します。

さて、ここで皆さんに東京大学校友会を少し紹介させて頂きたいと思っております。東京大学校友会は、個人会員と団体会員からなる全学同窓組織であり、2004年に発足致しました。本年で発足17年となります。個人会員では、すべての在学生、教職員と存命の卒業生、合わせて20数万人に及ぶ、大変大きな組織であり、加えて、団体会員としても、学部や学科の同窓会、国内外の地域同窓会、運動部やサークルのOB会・OG会等々、311もの団体が登録されております。

校友会の活動と致しましては、卒業生向けのイベントのみならず、近年は、新入生の学年会や、学部3年生の就職活動のための面接演習等、在学生を支援する活動も拡充してきております。本年度は、10月のホームカミング日に合わせて、今年入学された皆さんの学年会を行う計画がございます。文系・理系や科類を超えた同期生との交流、大学の先生や先輩、卒業生との懇談の場として、この秋の学年会に皆さんが多数参加されることを期待しております。

また、東京大学校友会は、海外35か国・地域にも多くの会員を有するグローバル・コミュニティであり、性別、年齢、国籍を問わない、極めて多様な人材の宝庫であります。この素晴らしいコミュニティで、皆さんの在学ないし留学中、さらには卒業後の長い人生におきまして、東京大学の仲間との交友を広げて頂きたいと思っております。

さて、次に、簡単に私の自己紹介をさせて頂きたいと思っております。半世紀前の1970年に農学部農業経済学科を卒業し、鉄鋼メーカーである当時の新日本製鐵に一期生として入社致しました。社長・会長を経て、現在、日本製鐵 相談役を務めております。大学で柔道部におりましたことから、この日本武道館は、学生時代に選手として試合に臨んだ場所であり、また不祥事に揺れた全日本柔道連盟の立て直しを要請され、2013年から4年間、全日本柔道連盟会長を務めた際には、全日本柔道選手権大会を会長として主催致した場所でもあります。このように、この入学式の会場は、私にとりまして誠に馴染みの深い会場であります。

また、私が東京大学柔道部員であった当時、柔道部長をお願いしていたのが伊藤正己（いとう まさみ）法学部長で、部員一同、大変親身にご指導頂きました。先生は、のちに最高裁判事に就任され、また文化勲章をも受章されるなど、英米法及び憲法の日本の権威でもあられました。

伊藤先生の座右の銘は、論語にある「和して同ぜず」でありました。「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」の一節ですが、「君子、すなわち、立派な人は、いつも協調的であるが、大事な局面では自分自身の意見をしっかりと述べる事が出来る。小人、すなわち、つまらない人は、自分自身の意見を持たないので、付和雷同するが、喧嘩ばかりしている」との意味で、「しっかりと勉強し、自分の意見を持ちなさい」という訓えであります。私の尊敬する先生のこの座右の銘を、皆さんにも是非身につけて頂きたいと思っております。

さらに、もう一つ、皆さんに身につけて頂きたいのが「ノブレス・オブリージュ」の精神であります。「ノブレス・オブリージュ」とは、欧米社会における基本的な道徳律であります。古くから貴族制度が根付いていた欧州を起源とする概念ですが、「身分の高い者はそれに応じて果たさなければならぬ社会的責任と義務がある」というもので、欧米の騎士道精神の根幹をなすものであります。新渡戸稲造が、彼の書いた「武士道」の中で、日本の武士道精神にも通ずるものであると解説しています。

皆さんは、これから皆さんが進む分野において、将来、この国のみならず、国際的なリーダーとなる事が大いに期待される人達であります。皆さんには、知力、気力、体力に加え、人としての倫理観をも併せ持った、万国共通の真のリーダーになってもらいたいと思っております。

先ほどの「和して同ぜず」とこの「ノブレス・オブリージュ」を心に刻み、これからの4年間を過ごして頂きたい。色々な事柄を学び、多くの人と出会い、視野を広げ、知性と感性に加え、品性をも磨いて頂きたい。皆さんが単なる「頭の良い東大卒業生」で終わらぬよう、東大校友会20万人のOB・OGもお手伝いしていきたく思っております。

最後になりますが、皆さんの東京大学への入学を心からお祝い申し上げます。皆さんご自身も、これまで皆さんを育ててくれたご家族に感謝し、そして入学できた幸運にも心から感謝し、心豊かな人間に成長して頂きたいと思っております。改めまして本日は誠にありがとうございます。

令和3年4月12日
東京大学校友会 会長
宗岡 正二

3. 2. 令和3年度（第94回）五月祭オンライン開催について（大学ホームページより）

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、令和3年度第94回五月祭については、大学側と学生側代表である五月祭常任委員会との協議に基づき、以下の日程にて、無観客でのオンライン開催をすることとなりました。

令和3年度第94回五月祭
5月15日（土）9：00～16日（日）18：00

※無観客での完全オンライン開催となりますので、当日はキャンパスへ来訪されることのないようお願いいたします。

詳細については五月祭常任委員会の公式ウェブサイト[第94回五月祭 \(gogatsusai.jp\)](http://gogatsusai.jp)をご確認ください。

*事務局注：公開講座が開催されるようです。卒業生が視聴できるか不明ですが、ご参考まで。

① 15日(土) 10:00-11:30

河東泰之 先生 東京大学大学院 数理科学研究科 教授 「無限次元の数学と量子計算機」

数学研究の最先端にいる河東先生が、作用素環論をテーマに抽象数学の基礎から応用までを講義します。

② 15日(土) 12:10-13:40

黒嶋敏 先生 東京大学史料編纂所 准教授 「〈大敗〉から見た戦国時代」

織田・徳川連合軍が、鉄砲を用いた戦法で武田軍を破った戦いとして著名な長篠の合戦。織田方の歴史的な大勝で知られるこの合戦を、敗者の視点から見つめ直します。

③ 15日(土) 16:25-17:55

阿部公彦 先生 東京大学大学院 人文社会系研究科・文学部(英米文学) 教授 「英語的身体、を鍛える」。英米文学をご専門とする阿部公彦先生が英語を学ぶすべての日本人に向けて「英語的身体」の鍛え方をお伝えします。

④ 16日(日) 12:10-13:40

岡田康志 先生 東京大学大学院 医学系研究科 分子細胞生物学専攻・理学系研究科 物理学専攻 教授

「すごい顕微鏡で細胞を視て考える」 生体内の分子一つひとつの動きを直接追いかける技術と、そこから見えてくる生物の新しい姿について、岡田康志先生が講義します。

⑤ 16日(日) 15:30-17:00

生田幸士 先生 東京大学・名古屋大学 名誉教授 / 大阪大学医学部 招聘教授

「夢を超える医用マイクロロボット」 医用マイクロロボット研究の第一人者である生田先生が、ご自身のユニークな研究やその要である創造性について、研究生活における経験を交えて紹介します。

4. 【東京大学音楽部管弦楽団 サマーコンサート2021】

(事務局注：新型コロナ感染状況から中止等も想定されますので、ホームページ等で事前の開催確認が必要です)

■指揮：田代俊文(当団常任指揮者)

■曲目

チャイコフスキー / 交響曲第6番ロ短調作品74「悲愴」

レスピーギ / 交響詩「ローマの噴水」

ドヴォルザーク / 序曲「謝肉祭」作品92

■日時・会場

【長野公演】 2021年8月4日(水) サントミュージゼ上田
17:30開場 18:30開演 全席自由 / 1000円

【東京公演】 2021年8月6日(金) 東京オペラシティ
17:00開場 18:00開演 全席指定 / S席2000円 A席1500円

【神奈川公演】 2021年8月9日(月・祝) 神奈川県民ホール
12:45開場 13:30開演 全席指定 / S席2000円 A席1500円

【関西公演】 2021年8月11日(水) ザ・シンフォニーホール
17:00開場 18:00開演 全席指定 / S席1500円 A席1000円

■チケット販売開始 2021年5月8日(土)

※チケット販売開始前のご予約を含むすべてのご注文は承っておりませんのでご了承ください。

※キャンセルの際の払い戻しは、手数料分を差し引いた金額となります。

5. ホームカミングデイ

今年のホームカミングデイは10月16日(日) 予定です。卒業・修了40・30・20・10年期の集まりが予定されています。